

## 平成20年度 11月分NGO相談員事業従事報告書2

### ●今月の照会・相談対応全体に対する所感等(注:具体的に記載して下さい。)

学生サークルや学校での活動などで、途上国と直接つながる国際協力を行ないたいという相談が何件もあった。途上国支援をテーマにしたTV番組や報道の影響で、途上国への高い関心と具体的な活動を行ないたいという思いを持つ層が増えていると思われる。地域の国際活動の活発化につながる良い傾向であるが、現地への直接的な支援には事前のステップがいくつか必要である。支援したいという思いが先行すると、現地のニーズに合致しない支援になる可能性もあり、事前調査や実施体制などの検討を要する。

NGO相談員としては、若い層や教育現場か

### ●今月貴団体が対応した照会・相談のうち、特筆すべき照会・相談事項を3件記載下さい(3件以上ある場合、追加して記載下さい)。

1	NGOの事業継続について
相談内容	地域の小規模NGOからの相談。 これまでカンボジア・プノンペンのスラムで、未就学児を対象にした識字教育活動を行なってきた。近年、現地の状況が変わり未就学児も減少してきた。またカウンターパートも活動の中止を求めている。活動の終了や活動地の都市部から農村部への変更などを含め、今後の計画を検討している。団体代表の高齢化も課題となっている。同じくカンボジアで活動している貴団体に情報と意見を求めたい。
対応内容	まずは現地の状況把握をさらに進めるべき。確かに近年は政治の安定に伴い、プノンペンには発展が進んでいるが、未就学児支援が不必要になるほどの状況かどうかの判断には、より詳細な調査が必要ではないか。表面的には、子どもたちの教育の機会も改善されているように見えるが、長期的な視点で考える必要もある。また活動の継続のためには、団体の活動を若い世代に引き継いでいく必要もある。 上記のアドバイスの他、農村部や教育分野の状況についても情報提供をした。
特筆した理由	長年活動を続けてきたが、内外の状況の変化に伴い次のステップを検討し始めた団体が、管轄地域でいくつか出てきている。今後の針路について相談を受けることが多く、上記の事例も団体の集会に赴き対応した。スタッフの世代交代も含め、どの団体も活動継続のためには様々な課題を抱えている。地域のNGO活動全体にも影響を及ぼすため、サポートをしていきたい。

2	学生団体からの活動についての相談
相談内容	学生サークルからの相談。 これまでフェアトレードの普及などを中心に活動を行なってきたが、より途上国の人たちへ届く支援活動をしたいと考え、現地での学校建設を企画している。しかし経験も無く現地のカウンターパートも不在のため、どのように手をつけていけばよいか相談したい。
対応内容	まずは計画を立てる前に、援助活動について考えるワークショップを受けたり、途上国の現場にどんなニーズがあるかを調べてみてはどうか。
特筆した理由	最近学生の活動が活発になっており、個人・団体ともにさまざまな相談を受けており、上記のようにより直接的な国際協力活動を志向する団体も出てきている。しかし、学生団体は経験の少なさや継続性の難しさなどの課題があり、NGO相談員としてサポートをしていきたいと考えているため。

3	教育現場での開発教育活動について
相談内容	高校の教員からの相談。 開発教育のワークショップを授業で行っているが、子どもたちの自発的な国際協力活動へと結び付けるのが難しい。なにか良いアイディアはないだろうか？
対応内容	ワークショップを1、2回行っただけでは、自発的な行為はなかなか起こらない。様々な開発教育のワークショップや地域で活動している国際協力のリソースパーソンに出会うことによって、多方面から世界を見ることが出来るようになる。また自分の住んでいる地域と世界の結びつきに気付いた時に、なんらかの行動変容が起きると考えられている。 可能であれば、高校3年間という長いスパンで、生徒の自発性を踏まえた国際理解教育のカリキュラムを組んでいくのが望ましい。
特筆した理由	国際理解教育・開発教育を教育現場で取り組む教員が増えてきているが、最終的に生徒たちが自発的な活動を始めるように促したいという相談をいくつか受けている。しかし学校の授業だけでは限界があり、学校外のリソースを使っていくことが重要である。地域での国際協力促進のためには、若い世代へのインプットは重要であり、教員へのサポートも強化していきたい。